

第3回 (仮称) 明石市協働のまちづくり推進条例検討委員会 議事要旨

日 時：平成23年9月29日(木) 18:30~20:30

場 所：明石市生涯学習センター7階 学習室1

出席委員：田端会長、弘本副会長、武久委員、池内委員、桑原委員、中谷委員、山本委員、西野委員、森川委員、海士委員、岩濱委員

1. 会議開始のあいさつ

(事務局)：

それでは、定刻になりましたので、ただ今から第3回(仮称)明石市協働のまちづくり推進条例検討委員会を開催させていただきます。本日、松村委員は欠席で、出席委員は11名となっております。

●事務局による議題の説明

2. 地域との意見交換会(ワークショップ)まとめについて

(会長)：

それでは、議事に入ります。みなさん本日はお忙しい中、そして夕方にお集まり頂き、ありがとうございます。ワークショップも夕方に実施されましたが、やはり市民のみなさんにお集まり頂く場合、平日の昼間は難しく、夜になることが多いです。お疲れのところ申し訳ありませんが、みなさんのご意見を聞きながら会議を進めていこうと思っておりますので、最後までお付き合いお願い致します。

先ほど、事務局よりご説明がありましたように、第2回の検討委員会が終わってからワークショップを行いました。これは、市民の意見を反映させる目的で実施したものです。残念なことに台風の影響により、2カ所は開催できませんでした。残り5カ所は開催することができましたので、その内容について資料をまとめています。事前にみなさまの元へ送付させて頂いておりますので、既にご覧になられているかと思えます。また、委員の方々にはワークショップにご参加も頂きましたので、内容についてはよくご存知の部分もあると思えます。まとめてみると、このような議論があったのかと感じられる方もいらっしゃるかと思えます。

では、事務局より資料の内容をご説明頂けますでしょうか。その後、みなさんのご意見を聞きたいと思えます。

(事務局)：

資料1、当日配布資料1により「地域との意見交換会(ワークショップ)まとめ」について説明

(会長) :

ありがとうございました。ワークショップ 5 回の内容について、詳細にご説明頂きました。

私がこのようなワークショップを考えたのは、今後地域でワークショップを開いて頂きたい、開くきっかけになればという思いから実施しました。先ほどのご説明でもありましたように、中崎小学校区のように、地域によっては今回は初めてというところもあったと思います。

参画と協働というのは、ルール作りであり、そのルール作りの中には必ず住民参加や住民の意見を反映させていく場というのがございます。では、どのように住民の意見を反映させていくかといったときに、ワークショップはそのひとつの方法になると思います。そうした目的もあり、今回開催致しました。

また、そのワークショップでは市職員の方にも参加をお願いし、経験をして頂きました。コミュニティ推進室だけがワークショップをするのではなく、他の課の方にも入って頂くことで効率的なまちづくりについて議論できるのではないかと、という気持ちで実施しました。

今回ワークショップが初めてという地域もありましたので、まずは自分たちで話し合える内容がいいだろうということで、テーマには「地域の自慢」などを選びました。ここで出てきた意見は、地域の自慢を書いているだけではなく、そこへ至るプロセスや、地域の自慢をどのようにして発掘しようとしているのかなど、協働のヒントになることがあると思います。このあたりを中心に資料を読み込むことで、このまちづくり条例を考えていく上でのヒントがたくさんあるのではないかと、というのが私の感想です。

それでは、みなさんのご意見を伺いたいと思います。メモを作成してくださった委員もいらっしゃると思いますので、口火を切るということで、トップバッターをお願い致します。

(委員) :

私は 5 回のうち、4 回のワークショップに参加することができました。そこで出た意見などを自分の頭の中で整理したいと思い、このようなメモを作りました。

ワークショップの開催は、初めての地域と何度かしている地域があるようで、全体的にこのようなものかなという思いがしました。中には、ワークショップに慣れているなど感じた地域もありましたし、5 地区それぞれについて地域の特性がよく現れているなど思いました。また、地域の自慢については、参加者のみなさんが真剣に考えているなど感じました。ただ、時間の制約があったため、まとめ役の方も大変だったと思います。一つひとつ課題を抽出して、方向性を出した上で解決まで導くのは、1 時間半で行うのは難しかったと思います。それぞれの過程が、ワーク

ショップ1回分くらいに該当するのかなと感じました。あとは、いかに地域でこのワークショップを活かしていくかだと思います。1回目のワークショップはできましたので、今後地域の中で2回目・3回目をして頂けたらなと思います。

もう1点感じたことは、テーマが多様であったということです。その中で、私としては、自治会関係で以前から話題になっています災害時の要援護者台帳をどのように扱うかという問題や、自治会長の任期、自治会加入率、校区の代表と自治会長が異なる場合のことなど、地元の方から話を聞かせて頂きたいと思っていました。特に花園地区では、児童クラブを運営されていたり、他の地区とは違う体制でコミセンを運営されていたりするので、そのあたりについて話を伺いたいと思い、参加しました。以上です。

(会長) :

ありがとうございました。メモについて何かご意見はございますか。読んで頂くことでよろしいでしょうか。

(委員) :

後ほど、お話したいと思います。

(会長) :

感想を含めてお話頂き、ありがとうございました。確かに時間が短かったのは残念でしたね。夜遅くの開催となってしまいましたので、2時間程度が限度でした。その中でアイスブレイキングから始まって結論まで得るといえるのはハードでしたね。

では、ここからは自由にお気づきの点や疑問点を出して頂ければと思います。ファシリテーターを務められました委員の方からお願い致します。

(委員) :

ワークショップでは、まず市職員の研修から行いました。意外だったことは、市職員の方が、ファシリテーターだけでなくワークショップ自体が初めてという方が多くいらっしゃったことです。そのため、今後のことを考えますと、市職員の方がワークショップの研修を重ねる機会を設けたほうが良いということを感じました。研修後に、市職員の方からワークショップの件で相談を受けました。例えば、町名を変更するにあたって、住民の方からワークショップを行いたいという要望があった場合はどうしたらいいですか、という相談も受けました。そういった点も踏まえまして、まずは市の職員の研修の強化が必要かなと感じました。

私は、松が丘地区でファシリテーターを担当しました。この地域は高齢社会のど真ん中にありますが、非常に老人パワーを感じましたので、2回目・3回目のワーク

ショップが必要だと感じました。また違う形で、まちづくりの展開があるだろうと思いました。私がワークショップを行うときは、そのワークショップに参加された方の傾向が大切だと思っています。年齢から始まって、いろいろなことを探り当てて聞いていきます。そこから分かったことは、松が丘地区ではワークショップ参加者に明石市で生まれた方がいらっしゃいませんでした。そのような方々が松が丘を終の棲家と考えていらっしゃるのはすごく意外でしたが、みなさんそれぞれの思いがあるのだと思います。

(会長) :

ありがとうございました。市の職員の研修の話や、老人パワーの話が出ました。考えてみれば、ワークショップというのは年齢制限がありませんし、どんな立場で参加されても構わないものです。また、住宅団地というのは本来いいところですので、終の棲家にされるというケースは多いと思います。それ故の意見があるということに関心を持たれたということですね。

では、続いて、お願い致します。

(委員) :

来られていた職員の方はとても前向きで、一生懸命な姿勢がよく見えて、私は好感を持ちました。自分たちのグループをまとめながらファシリテーターを務める様子は、職員に研修を行われた委員の方の研修の成果かなと思いました。そういう職員が様々なところへ出ていくことによって、一人ひとりの意識も高まるのかなと感じました。

私は花園と鳥羽のワークショップに参加しました。鳥羽は会長を中心として組織がきちんとされていて、それぞれの部会も活発に活動されていました。部会同士の交流をしていますかとお聞きしたら、それも行なっているということでした。他にもお聞きしたのですがきちんとされていて素晴らしいと思いました。

資料 32 ページの下のほうに、アイスブレイキングの記載があります。ここの地域では、みなさんが住んでいる地域の印象を漢字 1 字で表してもらいました。ボランティア市民活動やボランティア活動でこのゲームを行いますと、「愛」「絆」「和」という漢字がすごく多いです。各部会の人々が「安全なまちづくり」「子ども育成」などの活動内容にマッチした字を選んでいることもよく分かりました。自治会の加入促進のチームからは、「煩」という漢字も出てきました。こういうアイスブレイキングをした場合、多くはプラス思考の漢字が出るものですが、「煩」この漢字が出てきたことが素晴らしいなと感じました。当日は、各グループから 3 つの漢字を選んで、前に書き出してもらいました。前に出てきた漢字以外はその下に記載がありまして、「遅」など見方によってはマイナスの漢字が選ばれていました。それは自分たちの課題や問題がよく見えているということなのかなと感じました。このゲ

ームにより、みなさんの本音がよく分かったと感じました。

花園地区ではたくさんの方々に集まって頂きました。鳥羽地区と同様に若い人の参加が多かったです。花園では、日曜日開催ということもあり、子どもを連れて来られていました。これから子育てをしていく方たちなので、とても熱心に参加されていました。特に子育てに関して、どのように子育てをしていくかという点は、やはりみんなで支援していかなければならないと感じました。どちらもとても興味深かったです。花園では、敬老会の話が出ていましたね。敬老会に参加する人がいないので、どうしたらいいかという問題について、形式的な敬老会は辞めたらどうかという意見も出ました。どのような敬老会がいいか、など様々な意見が出ていました。私からは他市では敬老会をどうしているのかについて調べてみるのも良いですねという話をしました。それがとても印象的でした。両地区ともとてもワークショップに慣れておられて、良い意味で深くネットワークやコミュニケーションがあると感じました。

(会長) :

日常的にネットワークを持っているところはワークショップもうまくいくということでしょうか。これにつきましては、先ほど委員より頂きましたメモの中にも、同様のご意見がありましたね。

では、私からも感想を述べさせていただきます。1ヶ所は雨で中止になってしまいましたが、3ヶ所は参加することが出来ました。

職員のみなさんも大変だったと思います。中にはうまくまとめようとする人と、まとめなくてもいいのではないかと、ある程度割り切って意見を出してもらう方がいらっしやいました。また、参加者の中にも、うまく議論に絡めない人、議論の中で一方的に話してしまう人、いろいろとおられました。こういった議論は小中学校以来のことなので、大変なのだと思いながら見ていました。そうは申しましても、きちんと結論まで持っていく、発表までしたというのはたいしたものだと思います。

中身に触れていきますと、行政に頼ろうという姿勢よりも自分たちでなんとかしようという発想が出てきていたところに感心しました。通常であれば、行政にPRしてもらうなどの意見になりがちですが、そうではなく、例えば「自分たちで祭りを維持していこう」など多くの自立した意見がみられました。行政もお金がないから地域でなんとかしていきたいという気持ちが非常に強いということを感じました。松が丘地区などは高齢化が進んでいる地域でありますし、全てを自分たちでとはいかないかもしれませんが、いろいろな地域で自立した気持ちを持っているということを感じ、そうしたみなさんの気持ちを条例に反映させていきたいという気持ちであります。

では、他の委員のみなさんも、感想などお話を頂けますか。

(委員) :

私は清水小学校区でお話を聞かせてもらいました。私は花園校区に住んでおりますので、自分の地域と清水小学校区との環境の違い、例えば周りに田んぼや川があるなどの違いにびっくりしました。そして、ワークショップの中でも自然とか野山などの環境に関することが地域の自慢としてすぐに出てきました。

私は自分の住む花園地区について、何か自慢があるかなと考えましたところ、新幹線があるくらいで何もないと感じました。

中崎小学校区について、現在、市の連合への加盟に関して中崎校区は2つに分かれています。このワークショップを機会に中崎小学校区をなんとか1つにできたらいいなと思っています。

(委員) :

私はワークショップにできる限り参加したいと思い、7校区中5校区の参加を予定しておりましたが、雷雨と台風の影響から3校区のみの参加となりました。報告書にもかなり詳しく書かれていますが、私自身も感じたことを書いてまとめてみました。

中崎小学校区のワークショップに参加して最初に感じたことは、非常に時間が短いということです。2時間という短い時間の中で、市から協働のまちづくりに関する報告が10分～15分かかりました。その後、アイスブレーキングが20分ありましたので、残りは1時間20分になります。その中でワークショップをする時間が30分～40分、残り時間でまとめを行うことになり、非常に時間が短く感じました。そのため、1回ではなく、何度か行う必要性を感じました。さらに、小学校28校あるうちの特徴ある7校区を選んで実施しましたが、もう少し実施するべきだと思いました。

また、説明の中では、明石市自治基本条例には市政への市民参画・情報共有・協働のまちづくりがあるということ、そして協働のまちづくりの内容についてお話がありました。しかし、ワークショップそのものは地域の自慢などをテーマに選ばれていました。ワークショップで意見が出るという意味ではいい方法であり、さらにアイスブレーキングで気楽な雰囲気の中で意見が出るというのはいいと思います。ただ、テーマの選び方でワークショップの方向性が出てくるので、少し考えものであったと思います。今回の協働のまちづくり推進条例検討委員会としては、花園地区での「協働でできることに、どのようなことがあるのか」というテーマが最もよかったと思います。私は、花園校区には参加できませんでしたが、参加できた3カ所のうち2ヶ所のテーマが地域の自慢でした。

鳥羽にはまちづくり推進計画があり、部会も4つありますので、自治会加入率は低いですが、街としてはしっかりやっているなと思いました。それから、清水小学

校区もテーマが地域の自慢についてということだったので、協働のまちづくりであればそういう視点でテーマを選ぶべきだと思いました。また、時間に限りがあるので、1回ではなく、2回・3回とみなさんの意見を聞いて行うべきだという感想を持ちました。

先程他の委員も言われましたように、最初に中崎小学校区に行ったとき、地域ごとの違いを感じました。自治会が大蔵地区に8自治会、人丸西部に5自治会、マンション自治会として4自治会あります。そういった自治会組織の違い、人と人との繋がり難しさなど、一本化できない問題点はそうしたところにあるのではないかと思います。また、人の心の閉鎖性や、どうしても自分の殻の中に入ってしまう、自治会の中にあの人がいるから私は行かないといった好き嫌いのことなど、ワークショップに参加してみて問題を感じました。今後の協働のまちづくり推進条例検討について、いろいろと考えさせられました。

(会長) :

テーマを「協働」と絞らずに、迂回した形になりましたが、意見をたくさん出して頂きたいというところからこのような形になりました。段々とこれが重なっていけば花園のように協働についてという内容に移りまして、要するにヒントをもらおうと計画を立てていたのですが、残念ながらこれは台風で頓挫してしまいました。

今、我々ができることは、ワークショップで出てきた意見を、協働をカギにして価値のある意見を抽出していくことだと思います。先ほどから何度も自治会の話が出ておりますけれども、例えば自治会は住民と行政のパイプ役になると書いてあります。こういうのは協働を進める1つの枠組みになるのかなと思います。小学校区という我々の対象とするエリアがあるわけですから、自治会をどう位置付けるのかなど、そういうところのヒントのなるようなものを見出していきたいと思っています。

一通りご意見を伺っていますが、もっと意見を頂きたいと思っています。

(委員) :

私も台風などの影響で1ヵ所しか行っていませんが、他の様々な場面で花園や松が丘は見えてきました。私は鳥羽にしか行っておりませんが、鳥羽で最も感じたことは、やはりリーダーが素晴らしいと思いました。リーダーによってまちづくりの姿勢がこんなにも変わるのかと、実感しました。自治会の加入率は低いですが、志は高いと思いました。私も自治会長をしておりますが、自治会を運営するに当たり、これからは地域でリーダーをどのように育てていくかというのが切実な問題だと感じました。

私も協働のためのワークショップを念頭に置いておりましたが、参加してみて少し違うかなという印象を受けました。この中で協働へと方向を変えていくことは、

一つひとつ取り上げていき、この事柄は協働に結びつきますということをこの資料の中からピックアップして、協働の条例の参考になればいいかなと改めて感じています。

(委員) :

私も後半多く参加したいと張り切っておりましたが、残念ながら天候の関係で流れたのもあり、最後の花園だけ行きました。先ほどからのまとめもありますので、大体の内容はこんな感じだったのかなと分かるのですが、花園校区はやはり特色のある小学校区や、活発な小学校区であるように思います。私の地元でもそうですが、ワークショップの開催の仕方、メンバーの集め方など今までは問題がありました。初めての方にも多く出てきて欲しいのに、同じメンバーばかりが出てくるなどの問題が多かったです。今回の鳥羽校区では本当にいろんな団体・メンバーが参加されていたということで、行きたかったなと思いました。花園校区では活発な若い方や女性が多く、私も勉強になりました。

(委員) :

私も後半の4つは参加する予定にしていたのですが、台風の影響もあって、最後、花園地区のワークショップも予定が重なり参加はしたのですが最後まで参加できませんでした。松が丘は最後まで見たのですが、団体構成としてはPTAの方が参加されても良かったのではないかなと思いました。特に花園地区のときのワークショップなどはPTAを中心に若い世代の方が多くて、お年寄りも含めて、幅広い意見の調整ができていたことを感じました。

松が丘校区の場合は、ファシリテーターを務められた委員の方が言いましたように、お年寄りの終の棲家にするための話し合いということが多く出てきます。対象者に子どもがいなかったのが少し寂しいなと思いました。それと地域柄もあると思いますが、事業主の話が出ないのが残念でした。花園の場合には事業主の話が出ました。松が丘校区はワークショップに参加される団体委員のバリエーションの少なさが影響したのかなと思います。これはまだ1回目ですので、2回目・3回目となってくれば、そういった形の参加も促せるのではないかと思います。

何人かの委員からも意見が出ましたように、協働のまちづくりのためのワークショップというのがあまりなされていなかったのが、気がかりでした。ただ、自治会や地域の方から「自分たちで何とかしよう」「そのためにみんなで協力しよう」というような意見が多くあり、それぞれの地域の特徴が出て、活発でよかったと思いました。

先ほどのまとめの中にも共感する部分はありますが、小学校区単位という1つの取りくくりがあり、明石には28校区あります。地域性がそれぞれの学校区ごとに出るというのであれば、ワークショップでもそれぞれチームごとに名前を付けるパ

ターンがあるように、それぞれに地域の名前を付けるなどの地域性を持たせてもよかつたのではと思いました。今後、小さいものから大きいものまで多くのワークショップが実施されていくと思います。それを取りまとめていく明石市がどうするのかなというのがあります。委員のメモの中にも書かれていた通り、あとは小学校区単位で進める協働のまちづくりを、今後合併・縮小などの問題が出てきたときに、どうしていくのかについては心配でした。

(会長) :

ありがとうございました。協働の相手方として事業主を絡めてくることに関して、いい意見が聞けたと思います。事業主は投票権を持っていませんので、新たなルールを作らなければならないところです。たいへんいいご指摘を頂けたと思います。では、他の委員の方々もどうぞお願い致します。

(委員) :

私は、8月5日の中崎地区と9月4日の花園地区に出席しました。中崎地区の中で、ファシリテーターを務められた会長が「まちのあらゆることについて自分たちが関われることを知ろう」とおっしゃいまして、今回のワークショップは非常に有意義なものであったと思っています。資料を読ませて頂きまして、コミュニティが希薄化している中で、人工的であっても何らかのネットワークを作らなければならないということは、確かにその通りだと思っています。地域団体と行政との役割分担に関して、どのように関わっていくのか、協働の在り方ということですが、そういうことも考える必要があるという記述もございます。

行政からの情報提供及びフィードバックに関しては自治会を通していても、それだけでいいのか、そういう内容の議論もあります。自治基本条例の中で協働のまちづくりの項目において、自治会がまちづくりの中心的な役割を担うというように記述がございますが、そういう点からも自治会の在り方について慎重に議論する必要があるのではないかと思います。

花園地区のワークショップの中で、ファシリテーターを務めた委員が、「行政と一緒に汗を流すパートナーとして認識する必要がある。対等なパートナーとしてお付き合いをする姿勢が必要だ」とおっしゃったのですが、これは非常に重要なことであると思います。行政がただ単に補助金、委託金を出しているということで、行政が地域とパートナーシップを取っているというのは言うべきではないと思います。やはり行政と地域が共に汗を流すというのが重要であると思っています。

ここで問題になるのが、超高齢化の問題です。私、市のホームページを拝見して、17年と23年を見ました。17年の人口は29万2千、23年が29万3千とあまり変わっておりません。ところが、65歳以上の人口が17年を100とします

と、23年は24%も増えています。約49,600人であったものが、61,700人に増えています。65歳以上の方は17年が人口の17%、23年が21%となります。団塊の世代の方が昭和22年から24年生まれの方ですけれども、昭和22年度の方が来年65歳を迎えられるわけです。そうなりますと、これからは急速的に65歳以上の方が増えてきます。まちづくりの担い手の問題や、実施事業の対象、どういった事業を対象にするかについても高齢化ということを大いに考慮しなければならないだろうと思いました。

(会長)：

ありがとうございました。自治会の役割について重要性を認識した上で、他のルートを含めて複合的なことを検討する必要があります。高齢化の問題は一朝一夕には解決できないですね。条例だけでは解決できるものでもないです。そういう状況も含めなければならないというのは、大変有意義なご指摘です。

では次に、副会長お願いします。

(副会長)：

今回事務局での日程調整の結果、ワークショップ開催日と予定が全て重なっていました。本来なら、私もファシリテーターとして参加させて頂く予定だったのですが、1回も参加できなかったことについては、お詫び申し上げます。お送り頂いた記録やご報告、参加された皆さんのお話を聞かせて頂く中で、断片的ではありますが、少しずつ状況などが頭に入ってきました。

今回のワークショップについて、「協働のまちづくり」と明確にテーマを打ち出していないところが分かりにくいというご意見もありました。例えば、熟度のある地域においては「協働のまちづくり」というテーマが与えられてもすぐに理解し、議論が可能ですが、そうでない地域では、いきなり「協働のまちづくり」と言われるよりも、もう一段階自分たちの生活のレベルで議論をした上で、そこから「協働のまちづくり」という視点での課題へと移行していったほうが議論しやすいということもあります。とりわけ発言しにくい人たちの発言を引き出しやすいという利点があると思います。今回、その地域の特性に合わせて、テーマ設定を検討した上で実施されたということで、これはこれで1つのやり方であろうと思いつつ聞いていました。ここでできるだけ多くの人たちの生活に根ざした発言を引き出し、その人たちがまちの担い手、当事者としての気持ちを高めていくことができれば、次の段階で「協働」という観点で自分たちに何ができるかという段階に進めていけるのではないかなと思います。

それから、小学校区ごとにみなさん、それぞれ活動していると思います。先ほど他の学区に行って驚いたというようなお話もありましたが、たくさん活動されている人でも隣接している地域のことはあまり知らないということもあります。それはみなさんが自分の校区のことをしっかりやっているということの裏返しでもあり

ますし、遠くに行くことはあっても近くの校区には用事がない限りなかなか行きませんよね。けれども、校区を超えた繋がりというのが、これからの地域の問題を解決していく上では非常に大きな力になっていくと思います。こういったワークショップにそれぞれが行き来をすることによって、自分たちの持っている知恵やネットワークをお互いに融通しあっていくようなことが出来れば、それはワークショップの成果になると思います。そして、それにより解決の糸口やアイデアを見つけていくことができるのではないかと、お聞きしながら改めて思いました。今後こうして出てきたご意見や成果を検討の材料として活用させて頂くわけですが、地域の方へどう返していくのかというところも責任を持って考えていかなければならないですし、その返し方も考えていく必要があると思いました。

(会長) :

ありがとうございました。地域にどう返していくのか、という副会長の最後の質問に関して、何か事務局でお考えがあったらご説明頂けますか。例えば、只今報告頂けたものを郵送するなどのお考えがあれば教えて下さい。

(事務局) :

今回、市の事情もありまして、市長懇談会と重なった中で、地域の皆さんには夏のお祭りや敬老会など、非常に忙しい中でご協力頂きました。「今回はいいきっかけになった」「いいことを実施してもらった」というお言葉も頂いております。ただ今回の内容をまとめるという形のところは当日にはできませんでした。このまとめ資料については、とりあえず各校区の会長さんを通じて校区の方々にお送りさせて頂きたいと思っております。校区のほうでこれを広めていきたい、深めていきたいというご意見がありましたら、一緒にご相談をさせて頂きたいと思っています。

(会長) :

ありがとうございました。他にご意見ございましたら、お願い致します。

(委員) :

年代のお話については、これから超高齢化になります。そこで、その方たちに向けた事業という問題も出てきます。参加者を見てもそうですし、私ども自治会の関係者やボランティアなんかを見ても70歳代が多いです。これから70歳代をいかに自治会にもう少し長く参加してもらえようというテーマ・事業、また、65歳の方については、今は後継者不足が1番困っていますので、65歳の方がスムーズに入れる事業を考えていければと思っています。70歳以上向け事業と65歳向け事業というのをそれぞれ考えてもらえればと思います。

(会長) :

具体的に若い方に入って頂くというところで、担い手をどうするのかは大きな問題です。協働の方向を考える上でも、住民は間違いなく主役の一つですから、その部分で担い手がいなければどうすればよいのかということは本当に大変な問題であると思います。おそらく松が丘はヒントになると思います。つまり、担い手のいないところでどう解決していったのかということです。もし、アイデアがあれば教えてください。

(委員) :

アイデアは特にありません。ただ、例えば私も含めて 70 歳代は褒めてもらえるのがいいですね。「ありがとうございます」「助かります」という言葉があると頑張れます。そういう言葉で、ボランティア活動ができるのです。65 歳の方では、「ありがとう」「ごくろうさま」では動いてくれないと思います。65 歳向けに別途考えることが必要かなと思いました。

(会長) :

ありがとうございました。褒めるのは大事な事ですね。褒めて育てるのか、怒って育てるのか、方法はそれぞれございます。最近の学生は褒めてもなかなか育ってくれませんが。

提案としてみれば、報償や報酬という形で行なっていくこともできますね。65 歳までの方や、もっと若い方に入って頂くには、いわばチャンスが大事だと思います。最近では成果主義という議論もありまして、成果を上げた人に報償・報酬をあげるものですね。ただ、成果を上げてくれそうな人に報償・報酬や機会をあげるというのも一種の成果主義だと思います。そういった意味で、パイロット事業のような競争型の資金提供機会をいろいろ考えるのは面白いかなと思います。他に何かお話があればお願いします。

(委員) :

松が丘は、以前は自治会と高年クラブがありました。現在は、高年クラブも高齢過ぎて活動できないような状態になっております。その結果、高年クラブというのとはなくなって、自治会だけとなりました。

いろいろな人と話をする中で、この人の現役時代の仕事は何だったのだろうかということがうかがえてきます。そうすると、大手企業のサラリーマンであった方が多く、現役のときに出張や海外出張、どこかの駐在員であった方なども高齢とされています。大手企業の方は現役の時に、かなり多くの研修を受けて育てられているので、ご高齢になられた時に当時の経験が生きてきます。そういう意味で、ワークショップや研修を行っても、こちらの立場も含みながら受けて頂けます。松が丘

校区は、高年クラブの関係では予算繰りなど、これまでかなり苦戦はされてきましたが、今はまとまっています。大手企業のサラリーマンの人たちが多くて、サラリーマン時代に色々力を出してきた人たちだなと思いました。逆に温かい感じはしました。

(会長) :

ありがとうございました。よろしければ、一旦ワークショップについての議論は終了したいと思います。

続きまして、まちづくり懇談会の報告に移りたいと思います。では、事務局より、まちづくり懇談会について資料のご説明と、自治会加入に関する調査結果についての報告をお願い致します。

3. まちづくり懇談会／市長懇談会および自治会加入調査についての結果報告

(事務局) :

資料 2、資料 3、当日配布資料 2 により「地域からの意見と自治会の現状」について説明。

「自治会加入に関する調査」について、アンケート実施主体である明石市連合自治協議会 会長を務める委員より、アンケート実施の背景について説明をお願いした。

(委員) :

こちらのアンケート結果は、連合自治協議会の理事会や役員会でこうした形式で実施するのがいいのではないかという意見や、実施するべきだという声について、連合自治協議会としてまとめたものです。まず、先ほども出ていましたように、任期の問題があります。会長の任期が 1 年や 2 年という自治会があり、各団体内でうまく話がまとまりかけた頃に任期終了になってしまう傾向にあります。そのため、単発の話し合いや校区内での話し合いを持つことはできても、まとまった話し合いをすることができていなかったようです。このアンケートは、昨年の明石市の自治会・町内会リーダー研修会の際に今回ファシリテーターを務められた委員より、自治会の任期が 1 年というのは非常に珍しいですね、という声を頂き、ショック受けました。このような経緯も含めまして、自治会加入率なども含めて調査を実施した次第です。また、補足になりますが、自治会長の任期について先日大垣市の連合自治会長 26 名と話をした際にも、任期が 1 年である旨を伝えたところ、やはり驚いていらっしゃいました。

アンケート結果の詳細については、後ほど事務局より説明があると思います。これは、明石市内の全ての自治会・町内会の会長 476 名全ての方々にアンケートを依頼し、実施したものです。回答率は、調査票回収数 406 票、有効回収率 85.3%で

した。回答内容は○×方式以外に、自由意見などもあり、みなさんお忙しい中ご協力頂き、非常に有効なアンケートであったと思います。得られたこのご意見などを、今後どのように進めていくかについては、ただ今検討中です。先日の連合自治協議会の理事会・役員会で出てきた意見として現在1つ進めているのが、自治会加入率の向上を図るために、分科会や検討委員会を立ち上げることです。28 小学校区の中から7名で構成します検討委員会を作り、自治会加入率を上げるためには具体的にどのようにすればいいかを考えています。この7名の中には、自治会加入率が低い傾向にある鳥羽地区と西明石地区の自治会長にも、ご参加頂いています。

このように、このアンケートをもとにして、自治会加入率や会長の任期の問題についてのまとめをしていきたいと思えます。年度末に向けて、方向性を示していきたいと考えております。

(会長) :

委員、事務局の方、ご説明ありがとうございました。アンケート、まちづくり懇談会、市長懇談会という、協働に関わる3つのデータなどを示して頂きました。ご質問があるかもしれませんが、時間も迫ってきておりますので、先に進めさせていただきます。

では、これから協働のまちづくりについて具体的なメニュー作りをする上で、ここは落としていけないという重要な部分について議論して頂きたいと思えます。例えば、先ほどまでの議論にもありましたように、担い手の問題などいろいろと考えなければいけない課題が出てきたと思えます。そうした課題に視点を置いて、3つのデータをもとにみなさんからご意見を賜りたいと思えます。

(委員) :

いろいろなデータが出たてきたのですが、全体を通してしてみると、それぞれの地域内で「やりますよ」という意識を持っているなと思えました。メモの後半にも書かせて頂きましたが、チャンスがあって、ある程度人数が揃えば何かできそうだなと感じています。そうした地域の思いをどのような形でまとめていくのか、そして、それを実現していくためには市や行政からのバックアップが必要だと思えます。最初の議論にありましたように、行政が汗を流し、知恵も出すという姿勢を今後どのように実行していくのか、コミュニティ推進室という組織だけでいいのかを含めて、考えていく必要があると感じました。

(会長) :

ありがとうございました。動ける組織として自治会があるということですね。主体をどのように捉えるかについては、協働を考えていく上で重要な問題になります。そうした中で、自治会は大きな役割を果たさだろうというお話でしたね。

引き続き、気が付いたことなど、ご自由にご意見を頂けますでしょうか。アンケートについては、よくまとまっていて、いい結果だったと思います。分かりやすかったです。おそらく、今後各自治会長の方々からアンケートについての反応が出てくると思います。それについては、次回以降の議論に加えていければと思っています。

(委員) :

感じたことについてお話しします。市民がまちづくりに目覚めてくると、行政と対等な立場になってきます。現状の組織では、自治会長が行政と市民との間に立ってバランスを取っていますね。しかし、今後は、行政と市民との間にコーディネーターやファシリテーターのような人材が必要になってくると感じています。明石の場合は小学校コミセン単位でのまちづくりを検討していますが、私はこの部分に懸念を感じています。まちづくりの1番の中心になるべきなのは、市民センターではないかと思っています。例えば、防災のことや人事的なことを考えても、市民センターをもう少し重要視して、市民センターでできるネットワークを今のうちに見直しをしたほうが良いと思います。市民センターでないと分からない自治会や高年クラブなどの情報や、その地域に住む人の情報などが人材バンクとして見えてくると、もっと違う形でまちづくりができると思います。また、今後高齢化が進んでくると、高年クラブが運営できなくなり、松が丘地区のように高年クラブがなくなるところが出てくるでしょうし、自治会同士の合併もあるかもしれません。そうしたことを考えると、市民センターの役割について今のうちに肉付けをしていくのが良いのではないかなと感じています。

(会長) :

ありがとうございました。地域をどのように考えていくかということですね。現在考えているのは小学校区を対象としていますが、そこにどのような網の目を張っていくのかを考えた場合に、結束点の一つに市民センターというものもあるのではないかと思います。

(委員) :

先ほど他の委員のご意見にありましたように、今後65歳以上の方が活動に参加される場合に、今までのような全てを自治会の方々にお任せして、ボランティアとして片付けるのはよくないと思います。これまでは、自治会の方たちが「地域内のことなので自分たちで取り組むのは当然です、お金はいりません」という意識でしてくださっていたこともたくさんあると思います。しかし、最近の世の中は何でもボランティアがすればいいという風潮になっていて、ボランティアの役割が非常に重たくなっているように感じています。ボランティアを一生懸命している方たちの

中にも、果たしてこれが本当にボランティアなのだろうかと疑問を感じている方がいらっしやいます。そこで、今後地域を支える方たちはNPO 法人を立ち上げるといっても1つの手だと思います。もちろん、既に自治会などでNPO を立ち上げている方たちもいらっしやいます。地域の方たちのネットワークを少しでも有償にするシステムをなんとか作っていけないだろうかと考えています。何もたくさんのお金が必要だという話ではなく、継続するためと責任を持って地域の中に貢献していくために必要だと思います。65 歳以上の方たちに参加して頂く際に、ボランティアでお願いしますというよりは、そうした有償のシステムがあったほうが、積極的に活動して下さるのではないかなと思いました。行政側も汗を流して知恵も貸して下さるといことなので、一緒に有償のシステムを作れたらいいなと思います。

(会長) :

ありがとうございました。課題として、継続的活動のための組織形態を考える必要があるというお話でした。

(委員) :

1 番初めの2月に議論をしたときにもありましたように、地域格差の問題は絶対にあると思います。担い手がいないという問題や実態を把握するには、各小学校区地域の実情をもう少し我々も知っていかなければいけないと思いました。それから、小学校単位に範囲を決めて協働のまちづくりを活性化させていくという基本はありますが、その中だけで考えてしまうと知恵が枯渇して、議論が前へ進まないと思います。やはり外部からも人を入れる必要があると思いました。そういう意味でも、地域の実態や人材を把握する必要があると思います。情報共有の仕方やネットワークの促進の仕方も考えていかなければならないと思います。

(会長)

ありがとうございました。今回、28 校区中 5 校区でワークショップをしましたが、今後の予定について事務局より何かご連絡がございましたら、お願い致します。

(事務局) :

7 月から 10 月にかけて、市長懇談会を開催させて頂いております。台風による延期などもあり、9 月末現在で、残り 11 校区での懇談会が予定されています。この懇談会は、地域の課題について市長を交えてお話しする場となっています。そこでも、地域の違いや特色については話に出てきています。先ほどもご紹介させて頂きましたように、市民のみなさんから出るご意見は、ここを改善してほしいといった要望だけではございません。このようなまちづくりをしたいという独自の考えや意見を持っているので、それに対して市も協力をしてくれませんかというご提案も頂いております。そういう話し合いの場は、また設けていきたいと思っています。現

時点で具体的に、いつ何をするかというのは決まっていますが、こうした地域との話し合いの場は、市として今後も継続的に実施していきたいと思います。ただ、全体で 28 校区ありますので年に 3・4 回実施するのは難しいとは思いますが、継続するよう考えていきます。

(会長) :

行政が全て実施するのは難しいと思います。今回 5 カ所でワークショップを実施して、その中で進んでいる地域があることも分かりました。今度は、その地域からファシリテーターを出してもらい、他の地域でワークショップを実施するという方法もあると思います。そうすることで、他の地域を知るきっかけにもなるのではないのでしょうか。今回は経験を積むという意味で有意義でしたが、今後は行政側で全てお膳立てをしてもらうのではなく、他の地域の住民の方がファシリテーターを務める方法も良いと思います。このあたりについては、何か良い方法を考えて頂ければと思います。

また、きめ細かな情報の収集方法については、統計データなども含めて、どのような方法がいいのかについて考えていく必要があると感じました。そして、実施できないところをどうするのかという問題も議論していかなければなりません。また、外部の人をどのように入れていくのか、地区の外部の人と協働するためのルール作りについては、1 番大変になると思います。その方法としては、民間企業や NPO という選択肢もあるかもしれません。そうした各種団体とどのように協働していくのかは、大きなテーマになってくると思います。

(委員) :

今後、また小学校区単位のまちづくりで話題に出てくると思いますが、小学校コミセンの位置付けについて考える必要があると思います。自治会とコミセンの位置付け、地域とコミセンの位置付け、行政とコミセンの位置付け、それぞれ違いがあると思いますので、そこを考える必要があると思いました。そして、中学校にもコミセンがありますので、その住み分けをどうしていくのかという問題もあります。このことは、先ほど他の委員がおっしゃった市民センターの活用といった話題にも繋がっていくのかなと思いました。今後、小学校単位で進めていくのであれば、コミセンの在り方を考えるのは大切だと思います。事務局とするのか、拠点とするのかによっても変わってくると思います。また、拠点として小学校単位でするのであれば、みんなが行政の方を向くことになり、地域の特徴が出にくいことになります。意見の中にもありましたように、今後コミセンをどうしていくのが課題になります。協働のまちづくりがどのような形で進むのが、コミセンの在り方にも表れてくるのではないかなと思いました。

PTA をしている中で感じることは、自治会とは違いますが、PTA も地域として

小学校単位で見えています。そして中学校は、小学校や幼稚園を取りまとめた大きな形で見えています。それぞれの PTA が地域と連携するように活動しておりますし、地域に助けられています。今後どのような形で取り組みをさせてもらったらよいのかという意見も出てくると思いますので、今後の方向性を教えてもらえると有難いなと思います。よろしくお願い致します。

(会長) :

ありがとうございました。コミセンの問題は、取り上げなければいけない項目の 1 つだと思います。特に自治会との関係などは、大事な問題だと思います。今後議論する課題になりますので、本日結論を出すことはできませんが、項目の 1 つとして大事にしていこうと思います。他にもご意見がありましたら、お願い致します。

(委員) :

協働のまちづくりを進めるに当たって、地域格差があるのは当然だと思いますが、今後進めていく中で、平均点を目指すのではなく、私はまず底上げをしていきたいと思っています。加入率については 40%、80%、100%といったように違いがあるようですが、まずはこの 40%を 60%に変えるところから始めて、全体を上げていくという考えで進めていくのがいいのではないかなと思っています。

(会長)

おっしゃる通りだと思います。芽があるところは、水を与えてそれを伸ばすことができますが、何も無いところには、まず種を蒔くことが必要になります。この考え方は、できない地域をどうするのかという議論に繋がる部分があると思いました。

(委員)

他の委員のご意見を合せたような意見になります。市民センターを活用する意見については賛成なのですが、残念ながら私の住んでいる西明石地区には市民センターがありません。先ほど、他の委員がおっしゃったように、小学校単位で行っていたら知恵が枯渇するという問題があります。そこで、市民センターを利用して外部の方の知恵を借りるのは非常にいいことだと思います。そして、会長がおっしゃったように、種を蒔くという意味では、ワークショップなども、やはり若い人に参加してもらおうというのがいいと思います。高齢の方の中には、若い人たちが参加すると自分たちは参加しにくいと言われる方もいますが、私は若い人の参加はいいことだと思います。PTA や子ども会の役員も最近では全て 1 年交代なので、若い人にも入って頂けるようになっていきます。この 1 年交代というのは、いい方法ではないかなと私は感じています。それは、1 年間地域の中に入って取り組んで頂くことによ

って、その人たちの中に「あの時は、地域にお世話になった」という意識ができます。そうすることで、65歳になったときに地域の中でまた頑張ってもらえるのではないかと思います。先日私がびっくりしたことは、高齢者のボランティアの中に若い人が溶け込んで活動していたことです。昨年度子ども会の役員をしていた人が入っているところを見て、これも1つの成果かなと思います。任期1年の自治会であっても、その1年間を一生懸命した方は地域に対する愛着ができます。何年経っても、その気持ちは変わらないと思います。逆に自治会長がずっと同じであれば、新しい種が蒔けないのではないかなと思います。任期1年制がいいのか悪いのかは議論の余地がありますが、私は悪いことばかりでもないと感じています。

(会長)：

ありがとうございました。

(委員)：

気になったことを申し上げます。自治基本条例が既にできておまして、その第16条から19条で、小学校単位でまちづくりを支援するとなっています。その小学校区のコミュニティセンターを協働のまちづくりの拠点と位置付けると謳われています。これは、我々としたら非常に窮屈な話になりまして、議論の余地が狭まれていることとなります。自治基本条例の内容に抵触することは難しいと思いますし、この点が非常に悩ましいとも感じます。このあたりについて、行政側のご意見を伺いたいのですが。

(会長)：

市民センターの役割をどのようにするかということであって、拠点とするとまでは考えていないと思います。先ほど私も述べましたように、基本的には小学校区を単位として考え、その中でどのようなネットワーク層を作っていくのかという問題になると思います。

事務局の方のご意見はどうでしょうか。先ほどのご質問に対して、お答え頂ければと思います。

(事務局)：

今おっしゃられたように、協働のまちづくり推進条例自体が自治基本条例にもとづいて作成するというので議論して頂いておりますので、自治基本条例を無視して、違うものを作ることはできないと思っております。そういった意味では、議論の1つの道筋ができてしまっているところはあるのかなと感じています。ただ、何が何でも小学校区でしていくという意味で条例に書いているわけではありませんし、小学校区を基本として考え、その1つの拠点としてコミセンがあると考えてお

ります。そして、やはりまちづくりは全て小学校区でできるとは思いませんし、小学校区でない場合のほうがより効率的で市民のみなさんのためになる単位もあると思います。小学校区でしていたものを交流させていく場の1つとして、例えば市民センターなどがあるかもしれません。そうしたことも含めて、広い意味で活動に応じた単位として議論して頂ければと思います。

(会長) :

いろいろな考え方があると思います。例えば、昔、大平内閣の時には、小さいコミュニティを単位としてそれが生活圏、それらがさらに集まって大きくなると地域を作っていくという考え方がありました。階層型といったイメージです。先ほど事務局の方からのお話にもありましたように、基本は、小学校区であろうと思います。その基本の部分がどのように組み合わさっていくのか、そして組み合わさって活動する時には、どのような単位があるのかについては、考える余地があると思います。

自治基本条例を無視することはできませんので、基幹の部分はそのままに、あとはどのように組み合わせていくかということだと思います。

(委員) :

自治基本条例については、全くその通りだと思います。やはり基本は小学校コミセンでいいと思います。また、市民センターについても、二見市民センターをよく活用しています。それは、拠点ではありませんが、市民を守る役所の1つとして捉えていて、またいろんな団体が協力して貰っていますし、事務局として対応して頂くこともあります。そのようなことは本当に大切なことだと思います。

(会長) :

ありがとうございました。では、最後に副会長からお話をお願い致します。

(副会長) :

連合自治協議会と市が協力して実施されたアンケート結果のデータを見ておりますと、私が住んでいます大阪と比べますと、自治会加入率の高さに非常に驚いています。それでもなお、まちの運営をしていくにあたっては、とても不安を感じていらっしゃる方がいるという実態があり、そこで調査・分析をして、両者が協力をして解決策を見つけていくという姿勢は本当に素晴らしい取り組みだと思いました。ここから新しい協働のまちづくりができるという実感があります。

そうした中で、回答にも出てきておりましたが、加入率が高いが不安と回答されている方たちの意見に目を向けていかなければならないと思います。集合住宅自治会は加入率が高いという結果が出ている一方で、実は集合住宅自治会というのは、時が経つにつれてそこに集う人たちがみんな揃って高齢化するという将来の問題

もあります。神戸市や西宮市など先行してマンション化が進んだ地域は、現在深刻な問題に直面しています。例えば、管理組合の運営さえもできなくなっているという大都市の問題もあります。そうした時に、管理規約などを変更して外部の人が参加できるようにし、サポートしてもらわなければいけないのではないかと議論される状況にもなっています。明石市のマンションは神戸市などと比べると、もう少し後から建てられたと思いますので、現時点では集合住宅の加入率も高く、安定していると思います。しかし、将来的には大変な問題を抱えてくるかもしれないという危機感を持ち、それに対して早い段階で問題解決の方法を考えていくことが大切になっていくと思います。そうしたことを踏まえて、外部の力や事業者の力をいかにうまく利用していくのか、そのためには協働のまちづくり条例の中にどのような項目を設けていかなければいけないのかという視点で考えていくといいのではないかなと思いました。

(会長)：

どうもありがとうございました。時間が来ましたので、議論はこれで終わりにさせていただきます。本日はみなさまから本当に様々なご意見を頂きました。今後は、こうした意見をもとにして条例づくりの項目出しをして、それについて議論していくこととなります。この議論で、ある程度項目出しの部分ができていたのではないかなと感じています。本日お伝え忘れていたことなどございましたら、また後日でも結構ですので、事務局にお伝え頂きたいと思います。

では、以上で議論を終了させていただきます。

4. 今後のスケジュールについて

(事務局)：

最後に今後のスケジュールにつきまして、検討させて頂きたいと思います。

この条例につきましては、平成 25 年 4 月あたりに施行を考えておりますので、来年夏頃には一つの形を出す必要があると思います。そこで、少しペースアップをして具体的な中身についての議論に入っていくべきかと考えております。できましたら、10 月から 12 月までの年内にあと 2 回の検討委員会を開催し、議論して頂ければと思います。そして、年明けからは議論の進み方次第で決まっていくかと思えます。項目出しにつきましては、11 月と 12 月に 1 回ずつ実施し、第 4 回・第 5 回の検討委員会を開催して頂きたいと思いますので、日程調整をよろしくお願い致します。

●第4回検討委員会 11月10日(木) 18:30～

●第5回検討委員会 12月22日(木) 17:30～